

# 平成28年度 施策評価シート

基本目標	区民と区が協働で「すみだ」をつくる	
政策	520	生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする
施策の目標	区民が、趣味や教養、文化活動など、さまざまな生涯学習の活動に主体的に取り組み、生きがいのある生活を送っています。	

## 1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「生涯にわたる学習活動に参加している」・「最近1年間に文化芸術活動に参加」した区民の割合	%	50.0	-	-	-	-	34.4
「身近な場所で学習活動ができる」と感じる区民の割合	%	53.0	-	-	-	-	46.7

## 2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文化祭来場者数	人	7,272	6,972	7,105	8,180	7,205
社会教育関係団体登録数	団体	880	779	643	553	559
すみだ創生塾30.50.100単位取得者数	人	30	32	32	46	28
学習相談・照会等の件数	件	2,290	2,117	2,027	1,819	1,699
貸出者数(図書館)	人	387,739	350,805	457,220	474,778	518,196
イベント等参加者数(図書館)	人	6,369	6,600	6,605	6,462	9,124

## 3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>文化祭来場者数、すみだ創生塾単位取得者数、学習相談等の件数は堅調に推移している。社会関係団体登録数は、未更新団体の確認を行った結果減少した。</p> <p>あずま図書館と寺島図書館を統合し、平成25年4月にひきふね図書館として開館した。貸出者数は大きく増加し、開館2年目の平成26年度も貸出者数は増加している。また、図書館ボランティア団体「ひきふね図書館パートナーズ」との協働企画により、幅広い利用者層を対象とした事業を展開し、新たな利用者を獲得するとともに、区民の生涯学習の充実に寄与している。今後、ひきふね図書館以外の館も含め、より一層区民の生涯学習の機会提供を図っていく必要がある。</p>

## 4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
<p>【上記の判断理由】</p> <p>生涯学習活動等については、区が直営で行うほかNPO法人でも各種講座を実施しており、区民の受講も多く、自主サークルも活発であることから、より区民ニーズに応える効率的な運営を図る。</p> <p>平成29年度からは、更なる図書館サービスの向上や業務の効率化等を図ることを目的に、ひきふね図書館を除く区立図書館3館(緑図書館、立花図書館、八広図書館)の管理運営については、指定管理者制度を活用していく。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>「身近な場所での学習活動」を促進するため、NPO法人すみだ学習ガーデンと連携して生涯学習センターでの学習講座の充実を図る。また、生涯学習センターに改修を必要とする部分が増えていることから、区民が安心して学ぶことができる施設として適切に改修工事を進める。</p> <p>図書館においては、少子高齢化が進む中、子ども読書活動の推進や、高齢者や障害者の生きがいづくり等の課題に取り組むとともに、利用者ニーズを把握し、幅広い層に利用してもらえるよう利用者増を図っていく。そのために、図書館運営協議会の有識者による専門的な意見を参考に、区民・ボランティアとの協働の考え方のもとに図書館サービスの向上を図っていく。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	文化祭事業	生涯学習課	5,173	現状維持	
2	社会教育関係登録団体事務(登録)	生涯学習課	15	現状維持	
3	人権・同和教育事業	生涯学習課	1,022	現状維持	
4	すみだ創生塾事業	生涯学習課	66	現状維持	
5	リクエスト講座実施事業	生涯学習課	0	現状維持	
6	ITサポート事業	生涯学習課	135	廃止	民間事業者で代替可能で、一定の役割を終えた。
7	すみだ生涯学習フェスティバル事業	生涯学習課	123	現状維持	
8	すみだ生涯学習ネットワーク構築事務	生涯学習課	52	現状維持	
9	学習ガーデン事業(委託事業)	生涯学習課	54,735	改善・見直し	生涯学習センターは開館20年を経たこともあり、その事業について見直しを検討する。
10	視聴覚ライブラリー事業	生涯学習課	7,756	改善・見直し	生涯学習センターは開館20年を経たこともあり、その事業について見直しを検討する。
11	すみだ学習ガーデン補助金事業	生涯学習課	41,184	改善・見直し	すみだ学習ガーデンの事業のあり方や経営改善について注視していく。その中で補助金の見直しを検討する。
12	図書館事業事務	ひきふね図書館	318,141	改善・見直し	緑・立花・八広図書館について、平成29年度から指定管理者制度を導入する。
13	障害者サービス事業	ひきふね図書館	2,348	改善・見直し	障害者サービスの取組を推進する。
14	児童サービス事業	ひきふね図書館	464	拡充	子ども読書推進計画の達成のため、取組を充実していく。
15	図書館オンライン事業	ひきふね図書館	73,291	現状維持	
16	ブックスタート事業	ひきふね図書館	1,338	現状維持	ブックスタートクーポンの配付を始めた。
17	図書館と学校図書館の連携事業	ひきふね図書館	17,379	改善・見直し	学校図書館の支援の充実を図っていく。

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	文化祭事業		所管課・係	生涯学習課生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	文化祭行事費		執行実績報告書ページ	189

1 事業の概要

昭和29年の文化連盟誕生とともに、花道・写真・書道・俳句の4団体が、区の社会部の後援で、区役所第一庁舎の会議室にて第1回文化祭を開催した。現在は墨田区文化連盟との共催で、参加15団体(展示部門9(茶席を含む)、大会部門8、公演部門1)により開催している。	事業開始年度	昭和29年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
区内文化関係団体及び一般区民	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
墨田区文化連盟等と協力のうえ、展示・大会・公演と幅広い分野で文化祭	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
区民が文化・芸術活動における日頃の研鑽の成果を発表することができる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	来場者数	人	目標値	7,000	7,200	7,300
			実績値	7,105	8,180	7,205
成果指標 (目的に対する指標)	大会・公演部門参加者数及び展示部門出展数	人・点	目標値	3,300	3,200	3,000
			実績値	3,169	2,982	2,925

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

毎年安定した来場者があり、区民に定着した事業であるといえる。19年度からは、文化祭の更なる発展のため新規の大会(さくらフェスティバル)を創設した。文化祭参加に向け日頃から研鑽を積む機運が生まれており、区民の生涯学習活動の向上に寄与している。しかし、参加者の年齢層が高く、平成21年度以降3団体(謡曲連盟、短歌会、造景芸術連盟)が高齢化によって活動休止となり文化祭へも不参加となった。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	5,425	27年度 歳出決算額	5,173	27年度 執行率	95.4%	28年度 歳出 予算額	5,425
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
区民及び区内文化団体が日頃の活動の成果を発表する場として、また広く一般区民が文化・芸術活動に触れる機会として定着した事業である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
広く区民及び区内の文化団体が文化・芸術活動の成果を発表する機会を提供し、文化を伝承している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
例年の実施を通し、各部門において効率的な事務及び事業運営を図っている。				
(4)現状と課題	参加者の高齢化が進み、活動休止の団体がある。加盟団体参加者の確保や文化祭の周知方法を見直し、文化祭の活性化を図る。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	文化祭は、区民および区内文化団体が日頃の成果を発表する場として定着している。区民が生涯学習を实践する事業として、重要な事業である。
今後の方向性 (見直しの視点)	参加団体の構成員の年齢層が高いことから、幅広い世代に拡大していくことが望ましい。第一義的には、各団体の勧誘努力によるところが大きい。区として文化連盟と協力して、若い世代の参加を促していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	第4回定例会
	要旨	文化祭入賞作品のうち本人の同意が得られたものは、区内の公共施設に展示してはどうか。

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	社会教育関係登録団体事務(登録事務)		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	社会教育関係登録団体育成		執行実績報告書ページ	189

1 事業の概要

墨田区社会教育関係団体登録要綱に基づき、社会教育関係団体の登録をすることにより団体を支援し、地域の団体活動の活性化を図る。	事業開始年度	昭和52年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
5人以上で構成された、主として社会教育活動をしている自主団体・グループ						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
自主団体・グループの登録申請書を登録基準に基づいて審査し、承認のうえ登録証の交付						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
学校施設使用料の減免制度を活用して、自主団体・グループがより一層の活発な活動ができる						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	社会教育関係団体・既登録団体数	団体	目標値	655	665	580
			実績値	643	553	559
成果指標 (目的に対する指標)	社会教育関係団体・新規登録団体数	団体	目標値	20	20	25
			実績値	23	34	21
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
登録の更新期間が5年となっているが継続届の未提出団体が多く見られていたことから、平成26年度までに団体の解散や活動の休止による廃止手続を行ったため、登録団体数が減少している。 平成27年度から当該年度に継続期間の到来する団体に、継続確認の通知を送付し、登録団体の維持管理を行っている。 新規登録数は一定数あるため、ニースはあると考えられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	17	27年度 歳出決算額	15	27年度 執行率	88.2%	28年度 歳出 予算額	28
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
登録団体数も多く、区民の生涯学習活動を支援する意味から重要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
登録団体が学校施設を利用した場合は使用料の減免制度があり、金銭面における活動支援となっている。また、新規の登録をする団体も毎年、20団体程度がある。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
類似事業がないため、他事業との統合等は困難である。事業経費は、ほぼ継続申請等の用紙代及び継続確認通知送付用の郵送料である。				
(4)現状と課題	団体登録の有効期間が5年間となっているため、継続届や代表者変更届等の未提出団体が多く見受けられる。有効期間を迎える団体への更新案内と変更届の周知を図っていく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	登録団体数も多く、区民の学習活動を支援する必要があることから引き続き実施する。
今後の方向性 (見直しの視点)	登録期間を迎える団体に、継続についての案内を送付することで団体の状況確認を行い、適正な登録事務に努める。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	人権・同和教育事業		所管課・係	生涯学習課生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	人権・同和教育事業		執行実績報告書ページ	190

1 事業の概要

人権教育及び人権啓発の推進に関する法律に基づき、昭和52年度から「人権を考える講演と映画の会」を実施している。また人権尊重に関する文化活動等を支援している。	事業開始年度	昭和52年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
人権問題を正しく理解するための講演会の実施や、人権尊重を基盤とした各種団体活動への支援					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民一人ひとりが、差別をなくす意欲と知識を身につけている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	人権尊重を基盤とした各種団体活動の参加者数	人	目標値	1,000	1,000	700
			実績値	1,089	986	611
成果指標 (目的に対する指標)	人権を考える講演会受講者数	人	目標値	200	200	200
			実績値	131	80	141
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
人権尊重を基盤とした各種団体活動においては、平成27年度から一部対象事業を見直したため、実績値が減少している。講演会は、平成27年度はLGBTをテーマとしたことから受講者数が増加した。今後も今日的なテーマを取り上げることで、受講者数の増加を目指す。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	1,300	27年度 歳出決算額	1,022	27年度 執行率	78.6%	28年度 歳出 予算額	1,300
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>人権問題の正しい理解を図り、日頃からの人権意識を高めるために、継続して実施する必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>講演会の参加者に対して、正しい人権問題の周知に努め差別意識の解消を図っている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>すみだ人権啓発センター等と共催で講演会を実施することで、内容の充実化を実現した。</p>				
(4)現状と課題	講演会への参加者を増加させるため、テーマ・講師の選定を検討するとともに広く区民に周知するPR方法を検討する。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民の人権意識を高めるための事業として、すみだ人権啓発センター等との共催で実施する必要性の高い事業である。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も、すみだ人権啓発センター等と連携して継続実施していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	決算特別委員会
	要旨	人権同和教育事業の支出内容はどのようなものがあるか。

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	すみだ創生塾事業		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	03-5608-6309
予算書名称	すみだ創生塾事業		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

より豊かに生活するために学び、さらに学んだことを活かして活動をする区民を応援する事業として、平成15年から事業を実施した。歴史・文化、健康など7つの分野で地域や生活に関わるテーマを取り上げた講座を認定し、ガイドブック等で周知している。区民の意欲を高めるため、学習歴を顕彰するとともに、今後の活動情報の提供やボランティア活動に向けた研修等を行っている。	事業開始年度	平成15年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
区民				に対して		
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
地域や生活に関わるテーマの認定講座を受講し、30単位、50単位、100単位を取得した場合に表彰状を授与したり、地域活動につなげるための研修や交流会の開催、情報提供				を実施したことで		
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
学習意欲が高まったり、学んだことを地域に活かしている				状態にする。		
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	認定講座数	講座	目標値	40	45	45
			実績値	41	43	41
成果指標 (目的に対する指標)	30・50・100単位取得者	人	目標値	35	35	40
			実績値	32	46	28
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
認定講座は新規に認定しているものも一定数あるが、休・廃止や隔年で開催する講座もあることから実績値として大きく変化していない。受賞者が学んだことを地域で活かせるように地域活動に向けた研修及び受賞者同士の交流会を実施しているが、毎年20名程の受講者に留まっている。これは自己の教養や、生きがいのために学ぶ人が多いことを示していると考えられる。学習活動の顕彰は意欲の向上につながっているが、必ずしも地域活動につながっていないことが課題となっている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	122	27年度 歳出決算額	66	27年度 執行率	54.1%	28年度 歳出 予算額	81
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>学習活動の顕彰という点では、励みになり学習意欲を高めている。しかし、研修会・交流会への参加割合は低い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>自己の教養や生きがいのために学ぶ人も多く、学習の成果が地域に還元されているとはいいい難い面がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>地域や生活に係るテーマの認定講座受講者を顕彰することは、学習意欲の向上につながっている。</p>				
(4)現状と課題	<p>区民の学習意欲の向上につながっているが、学習成果を地域活動に活かすための、具体的な方策をより一層検討していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>単位取得者の地域貢献の点について課題があるが、すみだ創生塾による表彰制度は区民の励みになっており、一定の成果があることから現状維持が妥当である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>単位取得者が学んだことを地域に還元できる方策を検討し、引き続き区民の励みになるよう、表彰制度を活用する。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	リクエスト講座実施事業		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	生涯学習一般事務費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

区職員の学習団体への派遣は、従来から各部署で個々に実施してきたが、平成13年度の第二次生涯学習推進計画策定により、墨田区生涯学習リクエスト講座実施要項を定め、全庁的な取り組みとして実施している。平成24年度予算以降、派遣職員の人件費等の支出を生涯学習課の事業費から、各派遣主管課の事業費での支出に変更された。このため、生涯学習課には予算配当は行われていない。	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民等の10人以上で構成する団体	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
団体からの要請に基づき、区職員を区民の学習会に派遣し、区職員の有している専門知識や区政情報の提供	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民の自主的な学習団体活動への意欲が今まで以上に向上する	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	派遣回数	回	目標値			
			実績値	6	5	11
成果指標 (目的に対する指標)	受講者数	人	目標値			
			実績値	215	199	289
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
区民が区政に関する知識及び情報を取得する有効な機会となっている。しかし、このリクエスト講座を利用しないで、直接担当課へ申し込んでいるケースが見受けられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	#DIV/0!	28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	低い
生涯学習課を通さずに直接主管課へ申し込んでいるケースもあり、各主管課による対応は可能であるが、対応可能なテーマを一覧化して周知していることが区民が開催する学習会開催の手助けとなっている。なお、昨年度は実施回数・受講者数ともに増加している。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
区職員の有している専門的知識を提供することにより、区民の自主的な学習活動が行われている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
各主管課へ講座のテーマを確認し、生涯学習ガイドブックやチラシにより周知し実施している。生涯学習課で一括して受け付けることにより広く区民へ周知が図れている。				
(4)現状と課題	事業の実施について、区民へ周知方法等について検討する必要がある。しかし事務の効率性等から、直接主管課が申込みを受けられる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区職員が行政に関する知識を区民に還元することは、重要な意義がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	現状のまま事業を継続する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	IT講習サポート事業		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	IT講習サポート事業		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

平成13年度に国庫補助事業を活用し実施したIT講習会の終了を受け、区内のNPO等と協働する事業を展開することとし、現在に至る。 区が初心者向けパソコン教室を主催するとともに、NPO等が開催するパソコン教室等を共催することにより区民のIT技術の普及と向上を図っている。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>								
社会教育関係登録団体及び区内に活動の拠点があり、共催実績があるNPO法人等	に対して							
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>								
団体が実施するIT講習会への共催及び、実施会場の優先使用やIT講習会実施のための物資援助	を実施したことで							
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>								
社会教育関係登録団体及びNPO等の団体が主催するIT講習会を通じて、区民のIT技術の普及・向上を図る	状態にする。							
<b>目的を達成するための指標</b>								
<b>種類</b>	<b>指標名(指標の説明)</b>							
活動指標 (手段に対する指標)	共催団体数	単位	団体	年度	目標値	H25年度	H26年度	H27年度
				実績値	2	2	2	
成果指標 (目的に対する指標)	講習会受講者数	単位	人	年度	目標値	H25年度	H26年度	H27年度
				実績値	2,000	2,000	2,000	
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>								
パソコンの各家庭への普及が目覚ましい状況の中、民間事業者等でも同様の講座が多く開催されていることから、受講者数は減少している。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	139	27年度 歳出決算額	135	27年度 執行率	97.1%	28年度 歳出 予算額	140
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	講座等参加者負担金			収入額	6
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>高齢者や主婦がパソコンに触れる契機として一定のニーズはあるが、現在では多くの民間事業者によりパソコン教室等が開催され、区の直営による事業実施についての目標は達成されている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>民間事業者等による講座が多数開催されていることから、受講者数は減少傾向にある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>民間事業者等による講座で代替え可能である。</p>				
(4)現状と課題	<p>区の直営事業としてパソコン教室の開催及びNPO法人・社会教育関係登録団体との共催事業の二本立てにより事業を実施している。直営事業は平成14年度当初から13年が経過し、当初の目的が達成されたことから事業を廃止する。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	廃止	判定理由	<p>区が直営で開催している「初心者のためのパソコン教室」については、初期の目的を達成していることから廃止する。なお、NPO法人・社会教育関係登録団体を実施しているパソコン教室については、今後も後援等を行い、支援を継続する。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>事業開始から13年が経過する中で、IT環境は急速な発展を遂げ民間事業者による講座で代替できる。また、今後も引き続き社会教育団体やNPO法人の行う講習会等を後援等することで、区民のIT技術の普及や向上を支援する。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	すみだ生涯学習フェスティバル事業		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	生涯学習一般事務費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

平成23年12月策定の「第三次墨田区生涯学習推進計画(墨田区まなびプラン)」に基づき、平成24年度に学習団体による発表会を、平成25年度には発表会と体験会をすみだリバーサイドホール・アトリウム等で開催するとともに、団体による通常の活動の見学会も開催した。平成26年度以降は、平成25年度の実施内容を基本に、修正を加えながら継続開催している	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		に対して				
生涯学習を始めたいと考えている区民及び学習内容を指導したりメンバーを増やしたいと考えている学習団体						
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		を実施したことで				
学習団体の活動のアピールの場(中央会場・通常活動会場)と区民の学習の体験や見学の機会の提供						
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		状態にする。				
新たに生涯学習を始める区民等を増やすとともに、学習団体のメンバーの増加を図る						
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	参加団体数	団体	目標値	45	45	60
			実績値	37	45	54
成果指標 (目的に対する指標)	生涯学習を始めた区民の数 新規メンバーを得た学習団体	人 団体	目標値	15人・12団体	15人・12団体	10人・10団体
			実績値	8人・3団体	4人・4団体	15人・11団体
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成24年度から事業を実施し、開催時期や参加団体に対するPRを工夫することにより年々参加団体は増加している。また、参加団体が増加したこと、平成27年度はケーブルテレビで取り上げられたことなどから新規メンバーを獲得した学習団体が増えている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	138	27年度 歳出決算額	123	27年度 執行率	89.1%	28年度 歳出 予算額	134
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>区民の学習活動のきっかけづくりと団体の新規加入者獲得の機会を特徴として実施している事業である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>事業開始年度の内容は、団体の発表会であったが、平成25年度からは、発表会、体験会及び見学会を開催した。参加団体は増加しているが固定化している傾向があり、見学会への参加者が少ないことが課題となっている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>事業経費はチラシ作成の用紙などの事務用品経費が主なものであり、会場設営などを職員が行うことにより経費の節減に努めている。</p>				
(4)現状と課題	<p>これまで、参加団体の情報収集を行い募集をおこなっているが、参加団体が固定化されてきている。また、多くの区民の方の参加が得られるよう、PRに努める必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	発表会と体験会を兼ねているという点に意義がある事業である。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>参加団体は増加しているが固定化の傾向もあるため、新たな参加団体の掘り起こしに努める。また、見学者を増加させ、事業の活性化を図る必要がある。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	すみだ生涯学習ネットワーク構築事業		所管課・係	生涯学習課・生涯学習担当
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5608-6309
予算書名称	生涯学習一般事務費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

NPO、大学、専門学校、民間事業者等が情報交換や生涯学習の推進に関わる協議を行う仕組みを作り、それぞれの専門性を活かしながら協働し、多様な情報媒体を活用して、様々な年齢層の学習ニーズに応える学習機会を提供する。	事業開始年度	平成24年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
墨田区内のNPO法人、区と関係のある大学、専門学校、民間事業者等(平成27年度:7団体)					に対して	
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
ネットワーク参加団体による連絡会議(情報交換や連絡協議等)、協働事業への支援					を実施したことで	
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
参加団体がそれぞれの専門性を活かしながら、区や他団体と協働し、様々な年齢層の学習ニーズに応える学習機会の提供ができる					状態にする。	
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	連絡会議開催回数	回	目標値	2	2	2
			実績値	2	2	2
成果指標 (目的に対する指標)	参加団体が連携・協働して実施した講座等の事業数	講座	目標値	2	2	2
			実績値	1	4	5
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
各団体間の連携・協働事業が定着しつつある。平成27年度は、区主導で初めて全参加団体での協働事業を実施し、連携がより深まった。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習総務費	
27年度 歳出予算額	19	27年度 歳出決算額	52	27年度 執行率	273.7%	28年度 歳出 予算額	46
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>現在も各団体がそれぞれに学習機会提供の取組みを行っているため、事業を休止しても区民への影響は大きいものではないが、民間事業者を含めた生涯学習関係者によるネットワーク構築の必要性は各種答申等で謳われており、区内の生涯学習団体の活動をより活発化していくためにも団体間が情報交換や協議を行う仕組み作りは必要とされている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>参加団体間による自主的な事業協力が行われている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>参加団体同士が協働して実施することに意義があるが、ある程度区が主導する必要がある。区が主導で事業を実施すると、経費が必要となってくる。</p>				
(4)現状と課題	<p>参加団体を拡大する方向で進んでいる。今後の事業展開や、連絡会議の内容の充実、連絡会議外での情報交換が円滑にできるよう、検討していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	各団体間における連携・協力事業が定着しつつある。今後は新たな事業展開や連絡会議の充実に努める必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>参加団体との連絡協議を重ね、相互の情報交換を活発にさせるとともに、ネットワーク内の連携・協力の進展について検討する。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	すみだ学習ガーデン委託事業		所管課・係	生涯学習課
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	すみだ生涯学習センター(5247-2001)
予算書名称	「すみだ学習ガーデン」への事業運営委託費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

平成14年4月から学習相談、メディアコーナー、アマチュア無線、16ミリ映写機検定、プラネタリウムの5事業を「すみだ学習ガーデン」に委託した。そのうち、プラネタリウム事業については当該施設の閉館のため、25年度からは星空事業(幼児向け星空上映会)として委託している。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民等					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
学習相談、メディアコーナー等の事業について、NPO法人すみだ学習ガーデンへの委託					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
経済性・専門性が発揮される中で生涯学習センターの各種事業が実施され、生涯学習活動が盛んな					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	学習相談・照会等		件	目標値	2,300	2,300	2,300
				実績値	2,027	1,819	1,699
成果指標 (目的に対する指標)	「生涯にわたる学習活動に参加している」区民の割合		%	目標値	50.0	50.0	50.0
				実績値	-	-	38.1
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
昨今、インターネットの普及はもとより、民業における生涯学習分野への進出などにより、センターB棟2階情報コーナーにおいて実施する学習相談・照会件数については減少傾向にある。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習センター費	
27年度 歳出予算額	54,735	27年度 歳出決算額	54,735	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	52,935
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>成熟社会の到来の中、生涯学習センターが開館から20年を経過したことを考慮し、区民の学習意欲をサポートする事業について、今後、そのニーズを再確認したうえで、的確に実施していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>情報コーナーにおける学習相談・照会件数を始め、メディアコーナー利用者数、16ミリ映写機検定数など、減少傾向にある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>センターB棟2階情報コーナーにおいて学習相談事業を実施するほか、メディアコーナーは4階等とそれぞれの事業に対し、各フロアに人員を要するなど、施設の構造上、非効率にならざるを得ない根本的な問題がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>PCの普及等メディア環境が大きく変わる中、16ミリ映写機検定を始め、メディアコーナー事業など、各種委託事業について、その必要性の再確認が求められている。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	すみだ学習ガーデンへの委託事業について、区民ニーズを視野に入れて見直しを検討する。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>今年度、「すみだ生涯学習センターのあり方検討」を行うこととしており、すみだ学習ガーデンへ委託する事業についても、さまざまな視点から、その見直しを検討していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成28年予算特別委員会	
	要旨	生涯学習センターのメディアコーナーについて	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 10

作成年月日: 平成28年6月22日

事務事業名	視聴覚ライブラリー事業		所管課・係	生涯学習課
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	すみだ生涯学習センター(5247-2001)
予算書名称	視聴覚ライブラリー事業費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

平成6年12月のすみだ生涯学習センター開館に併せ、それまで各学校にあった学習用教材を一箇所に集約するなど、学校教育ライブラリーと社会教育ライブラリーとを統合し、視聴覚コーナーとして誰もが閲覧できるように整備し、開始した事業である。視聴覚ソフトを館内で閲覧できるほか、学校や生涯学習団体等には視聴覚機材も含め、すみだ生涯学習センター視聴覚資料貸出要綱に基づき、その貸出を行っている。	事業開始年度	平成6年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
区立小・中学校や生涯学習団体等					に対して	
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
収集・保管している視聴覚教材や機材の貸出					を実施したことで	
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
区民の生涯学習活動の意欲・効果が高まる					状態にする。	
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	視聴覚教材(ソフト)貸出件数	件	目標値	300	300	300
			実績値	209	166	132
成果指標 (目的に対する指標)	「生涯にわたる学習活動に参加している」区民の割合	%	目標値	50.0	50.0	50.0
			実績値	-	-	38.1
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
センター開館以来、暫くビデオテープ・16ミリフィルムを中心に、1000件を超えていた視聴覚教材(ソフト)貸出件数も、学校のICT化など、視聴覚環境の大きな変化に伴い、昨今、減少傾向が著しい。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習センター費	
27年度 歳出予算額	8,035	27年度 歳出決算額	7,756	27年度 執行率	96.5%	28年度 歳出 予算額	7,529
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>学校のICT化を始め、インターネットの普及など、視聴覚メディアの大きな変化の中で、今後の事業の必要性について、検討していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>施設の視聴覚コーナーについては、近隣の小学生が過半を占めるなど、特定の利用者の使用が多い傾向にある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>すみだ生涯学習センターB棟3階にて視聴覚ライブラリー事業は実施しているが、当事業を行う視聴覚コーナーを始め、センターの各コーナーは、それぞれのフロアに人員を要するなど、施設の構造上、非効率にならざるを得ない根本的な問題がある。また、類似事業を行うひきふね図書館との役割分担については、さらに検討していく必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>視聴覚ライブラリー事業については、視聴覚教育メディアの変化やインターネットの普及などにより、貸出件数が大幅に減少していること、さらにはソフト・機材等の老朽化も著しいことなどから、今後、事業の見直しを図る必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>視聴覚教材・機材に関わるメディア技術は、日進月歩で革新されており、時代や区民ニーズに沿った形で事業を見直していく必要がある。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>センター開館から22年を経過しようとする中、この間の社会環境の変化等を踏まえ、今年度、「すみだ生涯学習センターのあり方検討」を行うこととしており、ひきふね図書館との役割分担なども含め、今後の視聴覚ライブラリー事業のあり方についても、その見直しを検討していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年決算特別委員会、平成28年予算特別委員会	
	要旨	生涯学習センター視聴覚コーナーと、ひきふね図書館との役割分担(整理統合等)について	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 11

作成年月日: 平成28年6月22日

事務事業名	すみだ学習ガーデン補助金事業		所管課・係	生涯学習課
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	すみだ生涯学習センター(5247-2001)
予算書名称	「すみだ学習ガーデン」運営及び事業補助費		執行実績報告書ページ	191

1 事業の概要

生涯学習講座の企画・運営に関わる区民組織「学習推進委員会」への補助として、すみだ生涯学習センターが開設された平成6年度より開始。その後、学習推進委員会を引き継いだ「すみだ学習ガーデン」のNPO法人化に伴い、平成14年度より現在の「すみだ学習ガーデン補助金交付要綱」へと改正した経緯がある。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
NPO法人すみだ学習ガーデン	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
補助金の交付	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
生涯学習センターの各種学習事業の円滑な運営が図られる中、区民の文化・学習活動が盛んな	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	さくらカレッジ講座数	件	目標値	110	110	110
			実績値	123	144	125
成果指標 (目的に対する指標)	学習サポーター登録人数	人	目標値	250	250	250
			実績値	216	216	208
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
すみだ学習ガーデンが実施する「さくらカレッジ」について、講座数は、目標値を上回っている。一方、すみだの生涯学習を推進する学習サポーター(すみだ学習ガーデンの会員)については、伸び悩みの状況にある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	生涯学習センター費	
27年度 歳出予算額	48,000	27年度 歳出決算額	41,184	27年度 執行率	85.8%	28年度 歳出 予算額	38,400
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		すみだ学習ガーデン補助金					
27年度 実績額	41,184	28年度 予算額	38,400	対象	生涯学習講座の企画・運営事業、情報紙の発行等広報事業等		
開始 年度	平成14年度	根拠法令	すみだ学習ガーデン補助金交付要綱				
算定基準	対象経費の一部について単年度ごと			補助率	対象経費の10/10		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>生涯学習講座の実施については、生涯学習センター条例に掲げられた事業であるが、民業においても生涯学習講座が充実する今日にあって、官民の役割分担・区民ニーズを的確に把握するなど、その必要性を明確化したうえで実施していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>活動指標は増加傾向にあるが、成果指標については横ばいの状況にある中、改めて、その効果など、検証していく必要がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>直営事業として実施する場合と比べて効率的な面はあるが、民間でも実施している講座等については再考の必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>民間のカルチャーセンターや各大学における生涯学習講座の展開など、補助金開始当初と比較し、社会経済環境が大きく変わる中、その内容等も改めて考察していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	当該補助金について、28年度、前年度と比較し一定の割合を削減したところであるが、すみだ学習ガーデンにあって、その自立化に向けて「中長期計画」を策定するなど、経営改善に取り組んでいるところであり、その進捗状況を注視していく必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>今年度、「すみだ生涯学習センターのあり方検討」を行うこととしており、すみだ学習ガーデンへの補助事業についても、さまざまな視点から、その見直しを検討していく。また、すみだ学習ガーデンの資金調達について、区の補助金と委託事業に依存する財政基盤から、寄付や事業収入などの自主財源を安定的に確保できるよう、自立を求めていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年決算特別委員会	
	要旨	すみだ学習ガーデンへの区民行政評価委員会と教育委員会第三者評価委員会の評価について	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 12

作成年月日: 平成28年6月10日

<b>事務事業名</b>	図書館事業事務		<b>所管課・係</b>	ひきふね図書館
<b>施策</b>	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	<b>連絡先</b>	5655-2350
<b>予算書名称</b>	事業費(図書館事業費、資料購入費、資料整理管理、視聴覚資料)		<b>執行実績報告書ページ</b>	192

1 事業の概要

・図書館に必要な資料の収集、整備及び保存を行い、広く区民等の利用に供することにより、その教養と文化の発展に資する。 ・区民との協働による利用者ニーズに沿った新たな図書館サービスを創出・提供し、地域住民の生活や学びに欠かせない図書館となる。  根拠: 図書館法、墨田区立図書館設置条例、墨田区立図書館運営規則、墨田区協治推進条例、子どもの読書活動の推進に関する法律等	<b>事業開始年度</b>	昭和26年度
	<b>終了予定年度</b>	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
区民及び区外の図書館利用者	に対して					
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
ニーズを満たすような資料の収集・提供及び各種読書会やおはなし会等のイベント	を実施したことで					
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
日常生活の中に「図書館」というインフラが浸透している	状態にする。					
<b>目的を達成するための指標</b>						
<b>種類</b>	<b>指標名(指標の説明)</b>	<b>単位</b>	<b>年度</b>	<b>H25年度</b>	<b>H26年度</b>	<b>H27年度</b>
活動指標 (手段に対する指標)	資料購入数	点	目標値			
			実績値	28,840	28,277	29,325
活動指標 (手段に対する指標)	イベント実施数	回	目標値			
			実績値	236	266	298
成果指標 (目的に対する指標)	来館者数	人	目標値			
			実績値	1,044,871	997,940	1,075,398
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
・来館者数については、平成25年度のひきふね図書館開館時の来館者数は530,493人、2年目は508,054人と若干減少したものの、3年目の平成27年度は541,584人と、開館以来最高を記録した。このことに伴い、平成27年度は4館の来館者合計数も、過去3年間で最高となった。 ・活動指標に関しては、資料購入数及びイベント実施数ともに増加しており、これらの結果が来館者増につながっていると分析している。 ・予算や人員の制限はあるものの、今後もこれらの活動を充実させることによって、来館者数を増やし、【対象】を【目的】の状態にし、人々の生活にとって欠かせない図書館であり続けるようにしていく必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

<b>科目</b>	<b>款</b>	<b>教育費</b>	<b>項</b>	<b>生涯学習費</b>	<b>目</b>	図書館費	
27年度歳出予算額	321,949	27年度歳出決算額	318,141	27年度執行率	98.8%	28年度歳出予算額	329,665
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	有	有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	雑入(複写機使用代金・4館分)			収入額	1,230
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業に対するニーズの変化の状況及び今後想定される傾向 情報センターとして、また、利用者や地域の課題解決を支援し、交流の場としてのニーズが高まっている。</li> <li>・事業を実施すべき理由の有無 生涯学習の基盤として、本事業を実施すべき意義は大きい。</li> <li>・事業を休止又は中止をした場合の影響の有無 相当数の区民に利用されており、休止又は中止した際の影響は甚大である。</li> </ul>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標の実績値の変化の状況及び今後想定される傾向 平成27年度の来館者数は、過去3年間で最高数を記録した。</li> <li>・事業実施の手段の有効性 魅力的な資料を揃えることや興味を引くイベントを実施することで、来館者増につながると思われる。</li> </ul>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業経費の増減(推移)に係る状況 平成29年度から、緑・立花・八広図書館の3館に指定管理者制度を導入する。</li> <li>・受益者負担の適正性 入館料、その他図書館資料の利用に対しては対価は徴収しない。</li> </ul>				
(4)現状と課題	図書館企画(イベント)を実施し、更なる図書館利用者満足度を向上させていく必要がある。図書館の未利用者に対して、その利用を促進していくことが課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	平成29年度から、緑・立花・八広図書館の3館に指定管理者制度を導入し、効率的・効果的な図書館運営を進める。
今後の方向性(見直しの視点)	平成29年度からは、ひきふね図書館(一部委託の直営)と、緑・立花・八広図書館(指定管理)という運営形態となる。現行の利用者や、未利用者のニーズ等も見極め、墨田区立図書館全体として、効果的・効率的なサービスを展開していく必要がある。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

作成年月日: 平成28年6月9日

事務事業名	障害者サービス事業		所管課・係	ひきふね図書館
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5655-2350
予算書名称	障害者サービス経費		執行実績報告書ページ	192

1 事業の概要

・視覚障害者・高齢者等へ障害者サービス事業を実施する。 ・ボランティア等の育成を実施する。  根拠: 墨田区立図書館運営規則第2条第8号「身体障害者等への利用援助」	事業開始年度	昭和51年
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
図書館や資料を利用する際に困難のある利用者					に対して	
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
・録音図書、点字図書、拡大写本等の作成、提供と対面朗読等 ・他図書館からの借用、サピエ図書館の資料の提供 ・来館が困難な利用者に対する、施設へ出張貸出、郵送等による資料の貸出					を実施したことで	
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
希望する資料等を利用できる					状態にする。	
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	対面朗読時間	時間	目標値	1,000	1,000	1,000
			実績値	1,142	1,160	813
活動指標 (手段に対する指標)	郵送件数	件	目標値	3,000	3,500	3,500
			実績値	3,191	5,249	3,925
成果指標 (目的に対する指標)	貸出点数(障害者)	点	目標値	12,000	13,000	14,000
			実績値	12,601	15,925	13,721
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
・サピエ図書館の利用により、広範囲な検索が可能となり、利用者の希望に沿う資料の迅速な提供が可能となった。 ・来館が困難な利用者にも希望する資料を提供することができた。 ・デジター図書(デジタル録音図書)の利用が主流となってきている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	図書館費	
27年度 歳出予算額	2,713	27年度 歳出決算額	2,348	27年度 執行率	86.5%	28年度 歳出 予算額	2,821
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>・高齢化社会の到来等により利用対象者が増加傾向にある。                  ・2016年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、合理的配慮が義務化されている。                  ・図書館利用に困難のある利用者に、希望に沿う資料やサービスを提供していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>・資料やサービス等を提供をすることで、利用者の教養と文化の発展に寄与している。                  ・お話し会を実施することで、利用者が刺激を受け、その精神活動が活発になる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>・資料の収集については、他図書館等からの借用やサピエ図書館からのデータのダウンロード等により資料を有効活用している。                  ・来館が困難な利用者については、第4種郵便による郵送のほか、個人宅配等により資料提供している。</p>				
(4)現状と課題	<p>「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」により、合理的配慮が義務化され、更なる利用者の増加が予測され、継続的にサービスを提供するためには、効率的な事業運営を検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	更なる利用者の増加が見込まれることから、本事業の改善・見直しが求められている。
今後の方向性 (見直しの視点)	更なる利用者の増加に対応するため、マニュアルの再整備を行うとともに、ボランティア等の育成を推進していく。また、デジター図書についての周知を図る。電子書籍について研究・検討していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年11月27日 本会議	
	要旨	急速に普及しつつある電子書籍は、テキストデータを自動的に音声化することで、視覚による読書が困難な方でもスムーズな読書が可能となる。既に幾つかの自治体図書館で実証実験が行われており、今後の普及が期待されている。	

作成年月日：平成28年6月10日

事務事業名	児童サービス事業	所管課・係	ひきふね図書館
施策	521 区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5655 2350
予算書名称	児童サービス経費	執行実績報告書ページ	192

1 事業の概要

読書を通じて子どもが心身ともに成長していく手助けとして、児童の図書館利用と読書啓発に供し、その教養と文化の発展に資するため、おはなし会や、出張おはなし会のボランティア育成を目的とした、読み聞かせボランティア講座・ブックトークボランティア講座等を実施する。 根拠：図書館法・墨田区立図書館運営規則・墨田区子ども読書活動推進計画	事業開始年度	昭和26年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
図書館利用者(おおよそ中学生以下)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
・児童書の選定収集・整理・保存・おすすめ本リスト作成配付・特集展示 ・おはなし会等行事・中学生体験学習・小学生図書館見学(利用案内) ・出張おはなし会・団体貸出(学校・保育園・幼稚園)	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
本や図書館に興味や親しみを感じ進んで読書をする	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	行事参加者数	人	目標値	6,200	6,200	6,200
			実績値	6,019	6,138	7,989
成果指標 (目的に対する指標)	15歳以下貸出冊数 (団体貸出を含む)	冊	目標値	190,000	240,000	240,000
			実績値	234,209	236,080	263,287

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

・行事参加者数の増加  
 ひきふね図書館において、乳幼児向けおはなし会の開催回数を増やしたこと、英語を楽しむおはなし会を開催したこと、近隣保育園の幼児の来館を促進したことなどから、参加者数が大幅に増加した。  
 ・15歳以下の貸出冊数の増加  
 教育委員会指導室や学校との連携による調べ学習への支援、また「POPコンテスト」の実施、「ビブリオバトル」の開催、更に、中学校の学校図書館への支援として、年間80回以上、定期的に職員が訪問支援したことにより、実績につながったと考える。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	図書館費
27年度歳出予算額	491	27年度歳出決算額	464	27年度執行率	94.5%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>現代社会において、子どもたちが自分で考え、判断し、主体的に生きていくためには、読書経験が重要となる。子どもたちは読書を通じて、言葉を学び、想像力を高め、感性を磨き表現力や考える力を育て、人生をより深く生きる力を身に付ける。子どもたちのより豊かな成長のためにも、家庭、地域、学校等と図書館が相互に連携を図りながら、すべての子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境を整えていく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>・指標の実績値の変化の状況及び今後想定される傾向 平成27年度は、行事への参加者数が増加したが、平成28年度は大規模改修工事に伴い休館する期間があるため、実績値は減少することが見込まれる。 ・事業実施の手段の有効性 おはなし会の開催といったイベントの企画だけでなく、魅力的な資料を揃えることや、団体貸出・ブックトークといった授業支援などを積極的に実施することで、目的が達成されると考える。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>・事業経費の増減(推移)に係る状況 緑・立花・八広図書館について、平成28年度は大規模改修工事を実施する。平成29年度から指定管理者制度を導入する。</p>				
(4)現状と課題	<p>図書館の環境整備・資料の充実、学校図書館の整備・充実に支援し、多くの子どもたちが本や読書に関心を持ち、学力向上や生きる力を身につけていくよう支援をする。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	さらに子どもの読書活動を推進していく必要がある。
今後の方向性(見直しの視点)	<p>子どもの読書活動の推進は、大変重要な社会的課題であり、今後、図書館に興味のない子どもたちにも図書館を利用してもらうためにも、イベント等の企画のほか、「うちどく」などを推進する必要がある。またイベント等の企画・運営に積極的に関わることができるよう、ボランティアを育成する。更に、学校との連携を強化する。地域全体で子どもの読書活動を推進していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

事務事業名	図書館オンライン事業		所管課・係	ひきふね図書館
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5655-2350
予算書名称	図書館オンライン経費		執行実績報告書ページ	193

1 事業の概要

・昭和61年4月: 図書館オンラインシステムの運用を開始した。 ・平成17年12月: インターネットによる予約を開始した。 ・平成21年度から、すみだ女性センター情報コーナーに図書館オンラインシステムを導入し、利用者の利便性の向上を図った。 ・平成24年度に新図書館システムを構築し、平成25年度から運用を開始した。	事業開始年度	昭和61年(運用開始)
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>						
区民及び区外の図書館利用者	に対して					
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>						
資料情報、利用者情報、利用情報、発注情報等をオンラインシステムにて一元管理することにより、館内パソコンやホームページ、電話の自動応答サービスなどのシステムによって、資料検索、予約、貸出・予約状況の確認、図書館での行事及び開館時間等、図書館の利用に関する情報の提供	を実施したことで					
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>						
全図書館・図書室・情報資料コーナーの資料等を検索し利用できる、またプライバシーが守られている	状態にする。					
<b>目的を達成するための指標</b>						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	オンラインシステム稼働日数 (図書館ウェブサイト稼働日数)	日	目標値			366
			実績値	365	365	366
成果指標 (目的に対する指標)	インターネット等利用による予約受付件数	件	目標値			400,000
			実績値	349,270	378,551	409,877
<b>目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)</b>						
・閉館日であってもインターネットによる図書館資料の検索予約が可能なることから、オンラインシステム稼働日数は365日としている。 ・平成24年度の予約受付件数が27万8千件、平成25年度以降インターネット等利用による予約受付件数が大幅に増加している。墨田区立図書館のページが独立して設けられ、操作性の向上、スマートフォン専用ページの設置、統合検索など、検索性能が飛躍的に向上したことによるものと考えられる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	図書館費
27年度歳出予算額	76,884	27年度歳出決算額	73,291	27年度執行率	95.3%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		72,265
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
						0
<b>補助金名称</b> *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
図書館の蔵書管理や利用者の利便性向上を図るためには、システムの導入は不可欠である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
図書館ホームページのアクセス数、利用者数、貸出数等が伸びており有効性がある。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
WEB対応機能、情報発信機能等が大きく向上しており、効率性が高い。				
(4)現状と課題	他の多くの自治体同様に、利用者の利便性に沿ったオンライン化を整備しているが、様々な社会的変化の中で、図書館システムにおいても高度情報化社会への対応が求められている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	システムは日々進化しており、常に改善を図る必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	システムへの依存度が高まる中、システムの不具合に対するリスク管理が重要となる。図書館において、システムは、すでに欠くことのできないものである以上、これまで以上に職員体制を整え、不測の事態に備え、システムに対する知識を蓄積・共有していく必要がある。 また、利用者に対する利便性の向上を図るための知識の蓄積・共有も必要である。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 16

作成年月日: 平成28年6月10日

事務事業名	ブックスタート事業	所管課・係	ひきふね図書館
施策	521 区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5655 2350
予算書名称	ブックスタート実施経費	執行実績報告書ページ	193

1 事業の概要

平成15年4月から開始した「おひざでえほん事業」を平成16年度から「ブックスタート事業」として拡充した。	事業開始年度	平成16年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか						
乳児(3・4か月健診児)とその保護者		に対して				
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
・保健センター(本所・向島)で実施している3・4か月健診で、保護者一人ひとり絵本を手渡し、読みきかせ ・図書館での乳児対象事業の案内		を実施したことで				
赤ちゃんの反応を保護者が実感し、読み聞かせの重要性を理解したうえで、図書館を頻繁に利用している		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	絵本の配付率	%	目標値	100	100	100
			実績値	96	97	96
成果指標 (目的に対する指標)	乳幼児対象行事参加者数	人	目標値	2,500	2,550	2,300
			実績値	2,543	2,244	3,208

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の配付率 対象者への絵本配付率はおおむね達成している。図書館行事への参加者数が増加していることから、読み聞かせの重要性の啓発や図書館利用に繋がってきていると考えられる。</li> <li>乳幼児対象行事参加者数の増加 ひきふね図書館において、乳幼児向けおはなし会の開催回数を増やしたことで、子育て中の保護者の興味・関心が高い英語で楽しむおはなし会を開催したことから、参加者数が大幅に増加した。また、平成28年3月から開始した、「ブックスタートクーポン」による啓発も、影響したものと考えられる。</li> </ul>
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	図書館費
27年度歳出予算額	1,408	27年度歳出決算額	1,338	27年度執行率	95.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		1,408
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
乳幼児期に読書を経験することが、その後の読書習慣につながっていくと考えられる。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
図書館員が実演を交えて読み聞かせの大切さを伝えることは、対象者に直接訴えかけることができている点で非常に有効である。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
保健センターが実施する乳児の3・4か月健診の通知にブックスタート事業のお知らせを同封することで、効率的に周知することができる。また、3・4か月健診の受診率は高く、保健センターの協力により受診後はほぼ全員がブックスタート事業の説明を受けている。				
(4)現状と課題	場所や時間に制限がある中で、工夫を凝らし、いかに読み聞かせが大切であるか、図書館利用の啓発に努めている。幼児期や小学生になっても、絵本を読む楽しさを引き続き感じてもらえるような図書館行事についても検討していきたい。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	平成28年3月から、「ブックスタートクーポン」を対象者全員に配布することにより、最寄りの図書館(コミュニティ会館図書室含む)でも本事業の説明が受けられるよう事業改善を行った。
今後の方向性(見直しの視点)	今後とも本事業を積極的にPRし、子どもの感性を磨き豊かな情緒を育むための事業として推進していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年11月6日 決算特別委員会	
	要旨	佐賀県伊万里市のブックスタート事業は、ゼロ歳から3歳までの定期的な読み聞かせを図書館で実施している。墨田区では、現在、3か月健診等のタイミングで図書館の職員が保健センターに行き実施していると思うが、伊万里市の例を参考にしてほしい。さまざまなボランティア団体と協力して、就学前の子どもに対してのブックスタートを定例的にきちんと位置付けて実施してほしいと思う。	

事務事業名	学校と図書館の連携事業		所管課・係	ひきふね図書館
施策	521	区民の生涯にわたる学習活動を盛んにする	連絡先	5655-2350
予算書名称	図書館と学校図書館の連携経費		執行実績報告書ページ	193

1 事業の概要

各小中学校に学校図書館連携システムを導入し、また学校図書館の運営についてのアドバイス等、区立図書館による学校図書館支援を行う。  根拠:図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、墨田区子ども読書活動推進計画	事業開始年度	平成18年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

<b>【対象】 誰(何)を対象としているのか</b>	
区立小中学校の児童・生徒及び教職員並びに学校図書館ボランティア(保護者等)	に対して
<b>【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)</b>	
・区立全小中学校に導入している学校図書館システムの維持管理 ・児童・生徒及び教職員並びに学校図書館ボランティア(保護者等)に対し、学校図書館の運営についてのアドバイス ・調べる学習個別相談会	を実施したことで
<b>【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか</b>	
・子どもが読書に親しみ、調べ、まとめ、発表する力が身に付いている ・教職員が授業に必要な資料を迅速・的確に収集できる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	図書館非常勤職員の学校訪問回数	回	目標値		650	800
			実績値	566	633	833
成果指標 (目的に対する指標)	学校図書館連携システム図書貸出冊数	冊	目標値		280,000	300,000
			実績値	270,840	291,500	321,044

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

・学校図書館システム導入により、学校図書館の蔵書管理・資料検索が円滑に行われている。 ・学校への訪問回数を増やすことにより、学校図書館への支援を充実させている。 ・クラスへの団体貸出等により、児童にとって図書館や読書が身近なものになっている。
---

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) \*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	生涯学習費	目	図書館費	
27年度 歳出予算額	17,794	27年度 歳出決算額	17,379	27年度 執行率	97.7%	28年度 歳出 予算額	17,075
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>子どもの読書活動を推進していくためには、子どもの学習の場である学校との連携が必要不可欠である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>学校図書館の活性化は、図書館としても必要な事業であると考える。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>学校図書館への支援として、区立中学校に職員が訪問し支援している。今後も、さらなる支援をするための手段を検討する。</p>				
(4)現状と課題	<p>事業を継続的かつ円滑に実施していくためには、システム機器の更新経費が必要である。更なる学校との連携を強化していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	改善・見直し	判定理由	<p>学校で実施している「調べ学習」に対しても図書館が支援していくこと。更なる学校図書館との連携・協力が強く求められている。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>子どもの読書活動を推進する上で、学校図書館との連携は欠かすことができない。図書館職員がこれまで培ってきた専門的知識(選書、レファレンス、ブックトーク等)を活用することで、学校で実施している調べ学習の支援や、子どもの情報リテラシー能力育成等を効率的かつ効果的に行うことができる。 今後も学校図書館との連携を強化し、子どもの読書活動を推進していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		